

平成 27 年度 第 1 回 清瀬市史編さん委員会
議事要旨

日 時：平成 27 年 5 月 21 日（木）

午前 10 時～12 時 5 分

場 所：清瀬市健康センター 第 2 会議室

出席委員：根岸茂夫、栗山究、浅倉直美、黒川徳男、高村聡史、谷口康浩、
齊藤隆雄、齊藤靖夫、坂間和英、岡田耕輔、黒田一美、小西一午、（12 名）

欠席委員：中澤弘行（1 名）

事務局：市史編さん室長、市史係 1 名（2 名）

オブザーバー：博物館長（1 名）

《次 第》

1. 開 会
2. 委員自己紹介
3. 報 告
4. 各部会の事業計画について
5. 『(仮称) 市史研究』の構成案等について
6. その他
 - (1) 市史編さんの具体的な作業に向けて
 - (2) 新しい市史の判型等について
 - (3) その他確認事項
・次回会議日程
7. 閉 会

《配布資料等》

1. 会議次第（平成 27 年度 第 1 回 清瀬市史編さん委員会 次第）
2. 清瀬市史編さん委員会委員名簿
3. 平成 26 年度清瀬市史編さん委員会実績報告【資料 1】
4. 部会（年次）事業計画【資料 2】
5. 『(仮称) 市史研究』構成案【資料 3】
6. 市史編さんの具体的な作業に向けて【資料 4】
7. 新しい清瀬市史の判型等について（想定）【資料 5】
8. 平成 27 年度清瀬市史編さん委員会会議日程（案）【資料 6】

《審議経過》

1. 開 会

委員長 平成 27 年度の第 1 回市史編さん委員会を開催します。

本日は 10 時から臨時の市議会が開かれているということで、委員の中澤副市長、

また、企画部長、市史編さん室長、そちらに最初は出席するという事です。
ご了承ください。

議事に入る前に事務局から資料の確認および会議の進め方などにつきまして説明いたします。

事務局（配布資料および会議の進め方について説明）

2. 委員自己紹介

委員長 平成 27 年度最初の委員会になりますとともに、学識経験者委員に変更がありますので、改めて委員の皆様にご自己紹介をお願いします。

各委員（自己紹介）

3. 報告

委員長 事務局から平成 26 年度の市史編さん委員会の実績報告を行なっていただきます。

事務局 清瀬市史編さん委員会は、昨年 11 月 17 日に学識経験委員 5 名と団体代表委員 4 名、公募委員 3 名、副市長の合計 13 名の委員で発足しました。その後平成 27 年 1 月 19 日、3 月 13 日に合計 3 回の会議を開催し、「清瀬市史編さんに係る基本方針」を策定しました。今後はこの基本方針に基づいて、具体的な研究や、調査活動が進められていきます。報告は以上です。

4. 各部会の事業計画について

委員長 それでは、考古、古代中世、近世、近代、現代の 5 つの部会に、今後の事業計画についてご説明いたします。

（事業計画は【資料 2】を参照 以下は書面外の説明を掲載）

委員（考古部会長）（事業計画に沿って説明）調査計画がまとまれば、調査員を何名か配置したいと考えています。平成 27～28 年度は、学校や神社仏閣、個人が所蔵している考古資料についても調査し、平成 29～30 年の自然科学分析ではボーリング調査、花粉分析、土器の用途研究のための土器に付着したオコゲの分析などを検討しています。

委員（古代中世部会長）（事業計画に沿って説明）対象年代が千年ほどありますので、他の部会と異なり執筆専門員を置き、協力を得ます。古代中世部会は、基本的には古代班、中世前期班（鎌倉・南北朝時代）、中世後期班（室町・戦国時代）の 3 つに分かれて活動し、必要に応じて調整のための全体会議をもちます。4 月 25 日、5 月 9 日には部会をすでに開催し、方針の確認および市内や滝の城の巡見をおこないました。

委員（近世部会長）（事業計画に沿って説明）現在すでに上清戸にあるお宅から、幕末から近代の書籍を中心とした 200～300 点の資料を預かっているため、今後、近代部会、現代部会とともに整理したいと考えています。市内の資料の収集をどう進めていくかということ、近隣地域の調査をどう進めていくかが課題です。

委員（現代部会長）（近現代合同で事業計画に沿って説明）近代と現代は、従来のよ

うに終戦を境にするのではなく、経済や制度の在り方を考慮して明治から大正までを近代、昭和以降を現代とします。戦争中・戦争後の体験の聞き取りは緊急を要するものであり、継続的におこなっていきます。また、市民の方が資料になりえないと思われているものが資料になりうるのが近現代の特徴であり、そうした資料の収集も継続的におこなっていきます。新聞については全国版からキーワードで記事を探すと共に、地方版についてはしっかりと現物を確認していきます。市役所や農協などの団体がもっている古い資料についても調査します。部会の構成については、近代もしくは現代で専門調査員を2名検討しています。

委員長 各部会からの説明をうけて、ご意見をお願いします。

委員 考古の自然分析のためのボーリング調査は、民間で行なわれたものも活用できますか。

委員（考古部会長） 目的が異なるので詳しい調査には活用できませんが、大きな地質の調査には役立つかもしれません。ボーリング調査を行なう場所としては湿地が望ましいですが、具体的な場所の検討はこれから行います。

委員 自分が直接知っているわけではありませんが、農地改革について新聞記者に話したことがあります。また、軍隊で南大東島にいった人を知っています。そうしたことを実体験として知っていて存命な方は少なく、市民からの聞き取りは大変だと思います。

委員 今年戦後70年ですが、清瀬で記念誌を出すのでしょうか。調査が重なると問題もあります。

事務局 そういう話はきいていません。

委員 部会による調査に公募や団体代表の委員が見学に行くことは可能でしょうか。

委員長 場所と場合によるが、情報共有ができるといいですね。

委員 今年博物館の友の会が結成30年で、これまで刊行してきたフォトミュージアム（清瀬を題材とした歴史や文化、風俗風習、風景などに係る写真を主体とし、それに600文字程度の簡単な解説文を付けたもの）を一冊にまとめる予定です。これはテーマが非常に幅広いので参考にできると思います。

委員 古代中世部会では、当時の道に関する調査も行うのでしょうか。市内の道は、ごちゃごちゃになっていたり、名称に疑問があったりします。そういうところを正していければいいと思います。昔の状況を知るには碑も重要ですが、場所が変わっていたり、文字が読めなくなっていたりもします。

委員（古代中世部会長） 交通路は、古代から中世を通しての一つのポイントだと思っています。道をどう意識していたかで呼び名も変化しますし、時代によって重要な道が変わります。そういったことも追っていきたいと思っています。

委員長 お地蔵様や碑などの石造物については課題ですので、部会としてどうするかを考えながら対応していきたいと思っています。

委員 滝の城の発掘調査の報告内容は活用なさるのでしょうか。

委員（古代中世部会長） 活用していく予定です。

委員 舟運の問題のように市内だけでは分からないこともあります。

- 委員長 市内の情報や、資料の所有状況を知るためにも、学識の委員と団体代表・公募委員が話す場を事務局に設けてもらいたいと思います。
- 委員 普及版についてはまだ具体的には決まっていないのでしょうか。
- 委員長 決まっていません。
- 委員 収集した資料はどのように保管や公開をしていくのでしょうか。また、受け入れた資料は複製をとりますか。
- 事務局 資料の公開については具体的には決まっていますが、公開して地域に魅力を感じてもらいたいという思いがあります。
- 委員長 保管の方法については、部会の活動の中で具体的に考え、事務局に対応してもらいましょう。資料の複製はとるのが常識です。
- 委員 清瀬では、現在所有し複製のある資料、所有しているが複製のない資料、これから受け入れる資料という3つの問題や、寄贈と寄託の問題があります。清瀬市としての考えをまとめる必要があるでしょう。
- 委員長 今後「普及版」の問題と資料保存が大きな課題になることが確認されたと思いますが、各部会の事業計画については了承ということによろしいでしょうか。
- 委員 了承。

5・6. 『(仮称)市史研究』の構成案等について・その他

- 事務局 (一括して説明)
- 委員 市史研究に、聞き取りの成果や講演会のテープ起しを掲載したいと思っています。
- 事務局 事務局もそのように考えています。
- 委員 市史研究の具体的な値段等は決まっているのでしょうか。PRを目的としたものにしますか、それとも、専門的なものとしますか。
- 事務局 事務局では、50～60頁で、200～300円のを考えています。PRのために身近な内容を掲載したいが、別途検討したいと思います。
- 委員 PRにするならば『市史研究』という難しいタイトルではなく、検討した方がよいと思います。
- 委員長 市史研究の名称については今後の検討事項とし、内容は5つの構成で、そのうちの「新たな市史編さんに向けて」という項目ではここにいる委員が執筆し、その分量や期限については事務局から連絡するということによろしいでしょうか。
- 委員 了承。
- 事務局 (次回委員会日程について今後調整)

7. 閉 会

- 委員長 それでは、これで平成27年度第1回清瀬市史編さん委員会を閉会いたします。

清瀬市史編さん委員会委員名簿

平成 27 年 5 月 21 日現在

(敬称略)

分野	氏名	所属
学 識 経 験 者	浅倉 直美	埼玉県文化財保護審議会委員
	黒川 徳男	國學院大學兼任講師
	高村 聰史	國學院大學兼任講師
	谷口 康浩	國學院大學教授
	根岸 茂夫	國學院大學教授
団 体 代 表 等	栗山 究	清瀬市文化財保護審議会
	齊藤 隆雄	清瀬市郷土博物館協議会
	齊藤 靖夫	清瀬郷土研究会
	坂間 和英	清瀬市郷土博物館友の会
公 募	岡田 耕輔	清瀬市民
	黒田 一美	清瀬市民
	小西 一午	清瀬市民
清瀬市	中澤 弘行	清瀬市副市長

事 務 局	今村 広司	企画部長
	植田 貴俊	市史編さん室長
	齊藤 千香野	市史編さん室 市史係
	香西 真弓	市史編さん室 市史係

事務局連絡先（企画部市史編さん室）

〒204-8511 東京都清瀬市中里五丁目 842 番地 清瀬市役所本庁地下 1 階

TEL 042-492-5111（代表） 042-497-1813（直通）

FAX 042-492-2415

e-mail hensan@city.kiyose.lg.jp

〈資料 1〉

平成 27 年 5 月 21 日

平成 26 年度 清瀬市史編さん委員会 実績報告

日 時	内 容
平成 26 年 11 月 17 日 (月) 10 : 00 ~	・ 市長挨拶 ・ 委員自己紹介 ・ 正副委員長選出 ・ 清瀬市史編さんに係る基本方針 (案) について
平成 27 年 1 月 19 日 (月) 15 : 00 ~	・ 清瀬市史編さんに係る基本方針 (案) について (会議終了後、懇親会実施)
平成 27 年 3 月 13 日 (金) 10 : 00 ~	・ 清瀬市史編さんに係る基本方針 (案) の最終確定

〈資料 2〉

平成27年5月21日

部会（年次）事業計画

（考古・古代中世・近世・近代・現代）

考古部会 事業計画

1 概要

平成34年度資料編の刊行を目指す。

当面は、既報告資料の所在・現状調査、遺跡現地踏査、文献収集等を中心に活動を展開する。

2 部会の構成

◎ 部会長 谷口康浩（國學院大學文学部教授）

嘱託専門員（専門調査員） 1名

《協力者》

清瀬市立郷土博物館学芸員

3 年次計画

年 度	項 目
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・資料基礎調査（既報告資料の所在・現状調査、遺跡現地踏査、文献収集、未公開資料調査など） ・考古資料編の基本構成について検討 ・編集会議
平成28年度	
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> ・考古資料編掲載資料の選定 ・重要資料の実測図化（一部重要資料は三次元写真測量・図化を委託） ・写真、記録類の収集整理 ・自然科学的分析（専門研究機関・企業に委託） ・編集会議
平成30年度	
平成31年度	<ul style="list-style-type: none"> ・普及啓発版への協力 ・普及啓発版の制作
平成32年度	<ul style="list-style-type: none"> ・考古資料編用の資料化（遺物の実測・写真撮影、図版作成） ・考古資料編の編集作業（目次構成、執筆者・執筆分担、編集要領の作成、本文執筆） ・編集会議
平成33年度	
平成34年度	<ul style="list-style-type: none"> ・考古資料編の編集、入稿、校正作業 ・記録類の整理、保管
平成35年度	<ul style="list-style-type: none"> ・通史の執筆、図版作成等
平成36年度	

近世部会 事業計画

1 概要

近世部会は、天正18年（1590年）～慶応3年（1867年）を中心に、史料の調査及び掲載を行う。

対象は、市内の近世史料を中心とするが、隣接する東村山・東久留米・新座・所沢のほか、国立国会図書館・国立公文書館・東京都文書館・埼玉県立文書館・東大和市・調布市・国分寺市等の史料の調査が必要。

2 部会の構成

- ◎ 部会長 根岸茂夫（國學院大學文学部教授）
- 専門調査員
- 調査員

3 年次計画

年 度	項 目
平成27年度	・市内の史料確認調査 ・調査地域・機関の検討
平成28年度	・市内の史料確認調査 ・翻刻作業 ・資料編構成の検討
平成29年度	・周辺の市町村調査 ・翻刻作業 ・資料編構成の検討
平成30年度	・周辺の市町村・機関調査 ・翻刻作業 ・資料編構成の確定
平成31年度	・補足調査 ・資料編の編集作業
平成32年度	・原稿の確定、解説執筆、入稿
平成33年度	・通史編の執筆、図版作成等
平成34年度	・通史編の執筆、図版作成等
平成35年度	・通史編の執筆、図版作成等
平成36年度	・通史編の執筆、図版作成等

近代部会 事業計画

1 概要

平成35年度、資料編の刊行を目指す。

近世部会は、慶応4年（1868年）以降から大正期を中心に、史料の調査及び掲載を行う。

調査は、市民からの聞き取り・資料収集、新聞記事、博物館・図書館所蔵資料、市・都の公文書、各種団体の所蔵資料等を中心に行う。

2 部会の構成

- ◎ 部会長 高村聰史（國學院大學兼任講師 横須賀市市史編さん室嘱託員）
専門調査員
調査員

3 年次計画

年 度	項 目
平成27年度	市民からの聞き取り・資料収集、新聞記事、先行研究・資料集等、博物館・図書館所蔵資料、市役所公文書等調査
平成28年度	市民からの聞き取り・資料収集、新聞記事、先行研究・資料集等、博物館・図書館所蔵資料、市役所公文書、都立公文書館、近県・国の文書館、近現代金石文調査
平成29年度	市民からの聞き取り・資料収集、新聞記事、先行研究・資料集等、博物館所蔵資料、市役所公文書、都立公文書館、近県・国の文書館調査
平成30年度	市民からの聞き取り・資料収集、新聞記事、先行研究・資料集等、博物館所蔵資料、市役所公文書、都立公文書館、近県・国の文書館、学校所蔵資料、各種団体所蔵資料調査
平成31年度	市民からの聞き取り・資料収集、新聞記事、先行研究・資料集等、博物館所蔵資料、市役所公文書、都立公文書館、近県・国の文書館、学校所蔵資料、各種団体所蔵資料調査
平成32年度	市民からの聞き取り・資料収集、新聞記事、先行研究・資料集等、博物館所蔵資料、市役所公文書、都立公文書館、近県・国の文書館、学校所蔵資料、各種団体所蔵資料調査
平成33年度	市民からの聞き取り・資料収集、新聞記事、先行研究・資料集等、博物館所蔵資料、市役所公文書、都立公文書館、近県・国の文書館調査
平成34年度	市民からの聞き取り・資料収集、新聞記事、先行研究・資料集等、博物館所蔵資料、市役所公文書、都立公文書館、近県・国の文書館調査 資料編執筆
平成35年度	市民からの聞き取り・資料収集、新聞記事、先行研究・資料集等、博物館所蔵資料、市役所公文書、都立公文書館、近県・国の文書館調査 資料編刊行
平成36年度	市民からの聞き取り・資料収集、市役所公文書調査 通史編刊行

現代部会 事業計画

1 概要

平成33年度、資料編の刊行を目指す。

現代部会は、昭和以降からの資料調査及び掲載を行う。

調査は、近代同様、市民からの聞き取り・資料収集、新聞記事、博物館・図書館所蔵資料、市・都の公文書、各種団体の所蔵資料等を中心に行う。

2 部会の構成

◎ 部会長 黒川徳男（國學院大學文学部兼任講師
北区立中央図書館地域資料専門員）

専門調査員 1名
調査員

3 年次計画

年 度	項 目
平成27年度	市民からの聞き取り・資料収集、新聞記事、先行研究・資料集等、博物館・図書館所蔵資料、市役所公文書等調査
平成28年度	市民からの聞き取り・資料収集、新聞記事、先行研究・資料集等、博物館・図書館所蔵資料、市役所公文書、都立公文書館、近県・国の文書館、近現代金石文調査
平成29年度	市民からの聞き取り・資料収集、新聞記事、先行研究・資料集等、博物館所蔵資料、市役所公文書、都立公文書館、近県・国の文書館調査
平成30年度	市民からの聞き取り・資料収集、新聞記事、先行研究・資料集等、博物館所蔵資料、市役所公文書、都立公文書館、近県・国の文書館、学校所蔵資料、各種団体の所蔵資料調査
平成31年度	市民からの聞き取り・資料収集、新聞記事、先行研究・資料集等、博物館所蔵資料、市役所公文書、都立公文書館、近県・国の文書館、学校所蔵資料、各種団体の所蔵資料調査
平成32年度	市民からの聞き取り・資料収集、新聞記事、先行研究・資料集等、博物館所蔵資料、市役所公文書、都立公文書館、近県・国の文書館、学校所蔵資料、各種団体の所蔵資料調査 資料編執筆
平成33年度	市民からの聞き取り・資料収集、新聞記事、先行研究・資料集等、博物館所蔵資料、市役所公文書、都立公文書館、近県・国の文書館調査 資料編刊行
平成34年度	市民からの聞き取り・資料収集、市役所公文書
平成35年度	市民からの聞き取り・資料収集、市役所公文書 通史編執筆
平成36年度	市民からの聞き取り・資料収集、市役所公文書 通史編刊行

平成27年5月21日

『(仮称)市史研究』 構成案

新たな市史編さんのPR効果を期待し、一年に一度、冊子『(仮称)市史研究』を刊行していく。

その具体的内容は、現時点では、その年の研究成果等の報告・論文(寄稿含む)・資料紹介・市民の声等を織り交ぜ、編集していきたいと考えている。

● 『(仮称)市史研究』 構成案

1 新たな清瀬市史編さんに向けて

- (1) 市長
- (2) 清瀬市史編さん委員会委員長
- (3) 清瀬市史編さん委員会・考古部会部会長
- (4) 清瀬市史編さん委員会・古代中世部会部会長
- (5) 清瀬市史編さん委員会・近世部会部会長
- (6) 清瀬市史編さん委員会・近代部会部会長
- (7) 清瀬市史編さん委員会・現代部会部会長
- (8) 清瀬市史編さん委員会・団体代表委員
- (9) 清瀬市史編さん委員会・公募委員

2 論文

3 資料紹介等(写真等)

4 市民の声(コラム等)

5 市史編さん室からの連絡事項等

市史編さんの具体的な作業に向けて

1. 予算（平成 27 年度）について

- 報酬 261,000 円
市史編さん委員会（開催予定回数 3 回）
- 報償（謝礼） 9,500,000 円

専門部会

構成：考古・古代中世・近世・近代・現代	（5 部会）
・ 部会長（各部会 1 名）	3,000,000 円
50,000 円×12 か月	
・ 専門調査員（各部会 2 名）	6,000,000 円
10,000 円×60 日	
・ 調査員（各部会 1 名）	500,000 円
5,000 円×20 日	

2. 専門調査員・調査員関係

（1）専門調査員・調査員の人選及び報償費（謝礼）の支払いについて

- ・ 人選は、各部会長からの推薦とする。
- ・ 推薦を踏まえ、専門調査員・調査員名簿を作成する。この名簿に基づき市長が委嘱することとし、謝礼は、勤務実績に基づき市が支払いを行う。（委嘱日等については要調整）
- ・ 委嘱期間は、清瀬市史編さん委員会と同じとする。

（2）専門調査員・調査員の勤務管理について

- ・ 勤務日等の運用は、予算の範囲内で行う。
- ・ ただし、全体の枠組みの中で部会間の調整は可能とする。
- ・ 予算の関係上、勤務日等については、あらかじめ事務局と調整を図ることとする。

3. その他

(1) 作業室の使用（コミュニティプラザひまわり 3F）

- ・ 作業室は4月から使用可能である。
- ・ 使用方法等については、各部会の意向を聴取し、別途調整を図る。

(2) 専門嘱託員

- ・ 専門嘱託員の採用については、体制等が一定程度固まり次第行っていく。

(3) 市史編さんに係る予算関係

- ・ 市史編さんにかかる予算については、基本的に各年度1千万程度を想定している。（総事業費1億円程度）
- ・ 財政当局による次年度の予算編成作業が夏ごろから始まることを念頭に置いて、次年度事業等の組み立てを行う。

(4) 事業計画等の作成

- ・ 市史編さん事業の総事業費を念頭に置き、各部会は、中長期的な事業計画を作成する。

平成 27 年 5 月 21 日

新しい清瀬市史の判型等について（想定）

清瀬市史編さんに係る基本方針において、新たな清瀬市史は、通史編と資料編とを分冊し、より解りやすい構成にするとともに、写真や図等を取り入れる等広く市民に親しまれる内容にするとされている。

このことを踏まえ、本の判型等については、以下のとおり想定する。

1 本の判型

- 通史編：1 冊
B 5 判 頭注付き 1,000 ページ程度

- 資料編：5 冊（考古・古代中世・近世・近代・現代）
B 5 判 頭注付き 800 ページ程度

2 本の装丁

自治体史の装丁は、かつて、将来的な保存状況や重厚感等を考慮した布張りが主流であったと考える。しかし近年の自治体史見直しの動きの中では、自治体史が住民にとってより手ごろで活用されるものでなければ意味がないとの考え方も現れだし、装丁を単行本のようなハードカバーに施したりする自治体史も刊行されてきている。